

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700216		
法人名	株式会社フロンティアの介護		
事業所名	グループホームきらみの憩		
所在地	岐阜県恵那市明智町吉良見472-23		
自己評価作成日	令和2年2月26日	評価結果市町村受理日	令和2年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172000503-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で、住民とのふれあいの場を積極的に持ち、地域との繋がりを大切にしています。また、一年を通し季節を感じていただけるよう季節の行事に力を入れたり、音楽療法も取り入れ毎月計画を立て取り組んでいます。終末期ではご利用者様・ご家族様の希望によりホームでの看取りを考えられる方には、協力医・看護師との24時間の連携体制を取り、可能な限り受け入れさせていただいております。職場環境を整えることで職員の離職もほとんどなく、利用者様と馴染みの関係を継続し信頼関係を築いて、安心して過ごしていただけるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の運営方針を全職員が理解して適確に実践につなげ、危機管理についても法令順守に努め、感染症対策を徹底している。また、職員のスキルアップを奨励し、創意工夫しながら運営に反映させている。その成果は、職員の定着率の高さと利用者の入居率保持に表れており、本社から表彰を受けている。地域交流も積極的に行い、隣接する市の公共施設ふれあい会館で地域住民と懇談したり、職員のアイデアを取り入れながら、ホームでイベントも行っている。すべての人が笑顔でいられることを目指し、万全な医療体制の下、利用者が健やかに暮らせる支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念・介護の心得・介護の三大理念・接遇5原則ルールの唱和し共有している。実践につなげていけるよう、委員会や勉強会で話し合いの場を設けサービス向上の取り組みを行っている。	法人理念と共に、介護の心得や接遇事項を玄関や共用の間に掲げている。その意義を職員会議や勉強会で共有している。人と人、心と心のふれあいを大切に、笑顔の絶えない暮らしの支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、隣接する市のふれあい会館で開催されるサロンへの参加や地域行事に参加し、地域住民との交流を図っている。またふれあい会館の管理を請負、住民の方々への鍵の受け渡しを行い、日常的に交流している。	自治会に賛助金を納め、地域の行事に参加している。隣接する市のふれあい会館の鍵の管理を請負い、受け渡し時や行事の際は、地域住民と交流の機会となっている。利用者や職員も地元の人が多く、近隣からは、野菜の差し入れが日常的にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口を開設したり、中学生の職場体験の場や高校生のインターシップの場の提供をし、人材育成に取り組んでいる。地域行事には利用者様と共に参加し、交流をすることで認知症への理解に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・自治会長・民生委員・市職員・ご家族等が委員となり、年6回の運営推進会議を通して、利用状況・事故報告・人員報告・取り組みの報告を行ない、委員の方と意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議を隔月に開催し、運営の実情を報告しながら意見交換をしている。また、その時々に応じた議題を取り上げ、質疑応答を行いながら参加者の理解を得ている。参加者からの意見や提案をサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着部会・相談員連絡会・集団指導などに参加し情報交換や連携を図っている。運営推進会議にも市職員より参加をいただき情報交換を行っている。分からないことがあるときには、行政に直接足を運び意見や助言をいただいている。	市主催の会議や連絡会に積極的に参加し、行政担当者に運営の実情やサービスの取り組みを報告している。困難事例は随時相談して助言を得るなど、協力関係を築き、介護相談員からの情報もホーム全体で共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け拘束がもたらす弊害や身体拘束に該当する具体的な行為・身体拘束をしないケアの理解と実践について毎月勉強会を開き、廃止に向けての取り組みをしている。玄関の施錠も身体拘束であることを認識し、戸外に出たいときには付き添うようにしている。	虐待・身体拘束廃止委員会を毎月開催し、職員の勉強会も兼ねて意見交換を行っている。これまで、拘束の事例はないが、他社の事故事例からも学んでいる。転倒予防の為にセンサーマットは、家族の同意を得て設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について常に考え危険性を十分理解をし、職員同士声を掛け合い防止に努めている。虐待防止委員会や法令遵守委員会等でも毎月勉強会を設け全職員で取り組んでいる。		

岐阜県 グループホームきらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用されている方は現在みえないが、成年後見制度を職員全員で理解・活用できるよう、成年後見制度勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時には十分な説明が出来る機会を設け、不安や疑問点など尋ね、ご家族様やご利用者様が理解し納得・同意していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、運営懇談会を開催しご家族の意見や要望を聞く機会を設けている。来訪時にも直接意見・要望が聞いたり、面会記入表に自由に記入出来るように欄を設けている。月に一度相談員に来訪いただき、利用者様の意見・要望を聞いて頂いている。	家族の来訪時や懇談会で、意見や要望を聞き取り、利用者からは、日常のケアの際に聞いている。介護相談員からの報告も参考にしている。家族アンケートでは、満足度が高いものの、一部、取り組みへの理解が得られていない事例もある。	毎日、ブログを更新して、利用者の日常の暮らしぶりを伝え、ホーム便りでも、手書きのメッセージを送付しており、家族に喜ばれている。今後も、提供したサービスについて詳しく伝えて意見を聞き、アンケート回収率の改善にも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が直接意見や提案が出来るようにホットラインの設置している。今年度、創意工夫というスローガンを掲げ、会社全体で取り組んでいる。職員も新たなレクリエーションやボランティアの情報を取り入れ、取り組んでいる。	法人には、職員の意見や提案を受け付けるホットラインがあり、職員と意思疎通を図りながら、働きやすい職場環境作りに努めている。職員は、ボランティアから情報を得て、創意工夫をしながらイベントを企画し、利用者の参加意欲に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の評価や、有資格者に対して能力に応じてやりがいを持って働ける環境の整備に努めている。また、会社独自の役職を配置し、本社研修に参加をしてもらい達成感を持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修・実務者研修を働きながら取得できるように機会を設けている。新人・リーダー・ケアマネ・FTの各種研修を行っている。毎月の会議の中で研修報告をし、全員が勉強出来る機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内で施設交流や勉強会をしたり、他施設との情報交換や勉強会を行い、質の向上に努めている。恵那市の相談員意見交換会に出席をして、他施設との意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い、思いが出しやすい環境を作り、共感的な態度でご利用者の不安な思いや、何を求めているか等を傾聴し、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時には管理者・ケアマネと現場リーダーと一緒に訪問し、ご本人とご家族と別々に面談を行い、ご家族が困っている事や不安な事を表出しやすい環境を整え、傾聴しながら信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いを確認し、安心して利用できるよう、その他のサービスの提案や施設の案内、地域のケアマネージャーとの連携を図り、早急に出来る限りの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴の把握をし、それぞれの出来る事、能力を発揮出来るように関わっている。教えていただいた時には感謝の言葉を伝え、職員とご利用者が共に支えあう関係に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のほほえみお便りに生活の様子を伝えたり、ご本人の思いを職員が受け止め、ご家族に伝えたり、来訪時にはご家族とゆっくり過ごせる環境を整え、共に利用者を支えていく関係に心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚・友人・近所の顔なじみの方など、気軽に来所していただけるよう常に声を掛けたり、毎月開催のふれあいサロンに参加し馴染み関係を継続している。馴染みの場所や美容院にも出掛け関係が途切れないように、出来る限りの支援をおこなっている。	友人・知人が気軽に訪れている。地元出身の職員や利用者が多く、毎月開催しているふれあいサロンでも、共通する話題で会話を楽しみ、馴染みの人との関係を継続している。美容院や買い物、自宅周辺への外出は、家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	情報共有を行ない、気の合う人や合わない人の把握に努め、より良い関係が築けるように努めています。他のユニットのご利用者との関わりが出来るように、交流の場の提供をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も出来ることがあれば相談・支援の協力の意思をご家族に伝え、来訪しやすい関係づくりを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でゆっくり関わる時間を出来る限り作り、思いや意向を聞きとれる環境を整えている。意思伝達の困難なご利用者には表情・行動・生活歴の把握を行い、ご本人の希望に近づけるよう努めている。	職員は、日常のケアの中で、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向を把握するよう努めている。困難な人は、問いかけ時の反応や言動、家族からの情報も得ながら、本人本位の支援に努め、利用者が生きがいを持って暮らせるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート・センター方式・アセスメント表を活用し、身体状態・生活歴・生活環境等の把握ができるように、ご本人・ご家族より情報収集に努めている。入所前のケアマネジャーにも情報収集を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の行動や心身の状態をしっかり観察し、申し送りやカンファレンスにて職員同士の情報の共有を図り、一人ひとりの現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中でご本人・ご家族の思い・意向を事前に聞き取り、介護計画に取り入れるよう努めている。より良く生活するために、フロア会議で多職種の指示やケア内容の検討し意見を反映し介護計画を作成している。	介護計画は、本人・家族の意向を聞き取り、担当者会議で検討を加えて作成している。多くの家族は、できるだけ現状を維持しながら、転倒予防対策を希望しており、利用者の状態を踏まえながら、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを職員間で情報共有し、ケアプランに沿った支援ができるように記録している。記録の必要性を伝え、記録の充実に努め職員間の情報共有に努め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や緊急時対応は、ご本人やご家族の希望をふまえ、柔軟に対応している。状況や意向が変化した時にも、出来る限りのサービスが行えるよう対応している。		

岐阜県 グループホームきらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し、周辺情報など情報交換をし、ボランティアや地域の方々の協力を得ながら、生活を楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望するかかりつけ医があれば、ご家族で受診していただいたり、状況に合わせて代行受診をする。内科・眼科・歯科、複数の医療機関と関係を密に連携し、定期的に往診していただいている。	かかりつけ医は、本人・家族の同意を得て、協力医に変更している。定期及び随時の往診と、訪問看護の体制を整え対応している。他科医への受診は家族が担当が、家族の都合によっては職員が代行し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、常にご利用者の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。月2回の往診以外にも24時間の連携が取れる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の対応、医師からの説明をご家族様と一緒にしたり、支援方法などのサマリーを記入し、医療機関に提供している。入院期間中も見舞い、医師・ケースワーカー・看護師との情報交換しながら、早期退院への支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、ご本人やご家族の意向をふまえ、医師・薬剤師・職員が連携を取り、納得した最期を迎えられるような支援をしている。都度ご本人・ご家族と話し合いの場を持ち意思確認を行い、記録に残し全職員で共有するよう努めている。	契約時に、重度化・終末期の方針を利用者と家族に説明し、同意を得ている。利用者の状態変化があった場合は、段階に応じて家族と関係者で話し合い、その都度、意向を確認している。看取りは、家族の選択を尊重して支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について定期的に勉強会を行ったり、看護師による救急時の対応等定期的に勉強会を行い適切な対応が出来るよう話し合い職員全員で知識を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2日の防災訓練の実施やマニュアルを作成し、避難誘導が安全に行えるよう取り組んでいる。防災委員の自治会長にも運営推進会議メンバーになっていただき地域住民の方の協力体制を整えている。災害時の非常食の確保や小型発電機の確保をしている。	災害訓練は年に2回行い、1回は消防署が立ち合っている。各種災害マニュアルを整え、防災グッズ、発電機、備蓄品等を十分に確保している。自治会長を含め地域住民との協力体制も築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の誇りやプライバシーを損ねないような声掛けをする様に常に接遇5原則ルールを意識し、ゆっくり、優しく、丁寧に、相手に分かる言葉を用いるよう心掛けている。言葉がけで気になるときには、職員同士で注意し合えるようにしている。	職員は、常に接遇5原則のルールを順守し、誇りを損ねない言葉かけや対応を行っている。また、勉強会での事例検討を通して、馴れ合いから生じる言葉遣いが利用者のプライドを傷つけてはいないか、職員間で常に意識し合い、本人本位の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように、一人ひとりに合わせた声掛けを行い、自己決定できない方には、選択肢を示し答えやすく働きかけている。希望や思いの表出がしやすい、居室や入浴時等で話を聞ける環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、1人ひとりのペース・体調・気持ちに合わせて過ごしていただくよう支援している。何をしたいのか問い、レクリエーションや散歩等の希望に応じて出来る限りの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や乳液を使用される方や化粧の希望があればご利用者様にあわせて支援している。毎月理美容に来ていただき、ご本人の希望に沿ったカット・染め等が出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを聞き、個々で出来る限り対応している。ご利用者の能力に合わせ、下準備のお手伝いや、片付けを職員と一緒にやっている。職員も同じテーブルで食事をし、楽しく食事が摂れるよう会話をしている。	食事は、個々の好みや嚥下能力に応じて提供している。献立表の掲示で食欲を誘い、嚥下体操で誤嚥防止につなげている。利用者も、準備や片づけ等、出来る事に関わっている。職員も利用者と一緒に食事をし、郷土料理の作り方や味付けなどの話題で会話が弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない方には、好みの飲み物に変えたり、ゼリーにして水分摂取を促している。栄養が不足している方には栄養補助食品を利用したり、状態によってはプリンにして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持ができるよう、毎食後の口腔ケアを行っている。歯科衛生士による口腔ケアに関する指導を月に一度受けている。必要時には歯科往診・口腔ケアを専門医に依頼し管理をしている。		

岐阜県 グループホームきらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを周知し、時間を見て声掛け誘導して出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援している。一人ひとりの状態に応じてリハビリパンツやパットの種類を使い分け、排泄の失敗を少なくできるように検討し支援している。	個々の排泄パターンに合わせ、トイレでの排泄が習慣になるよう支援をしている。また、利用者一人ひとりの状態に応じた排泄用品を使い分け、本人負担の費用削減にも繋げている。夜間は、安全の為、ポータブルトイレを使用する人もあるが、安眠を考慮しながら支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便を排便シートにて確認し、個々の状態に応じ下剤を服用している。個々にあわせてヨーグルトの摂取や水分補給や日々の運動・腹部マッサージで自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時にはその日の気分やタイミング・湯加減などを聞き、出来る限りご本人の希望に沿った支援をしている。入浴中は利用者様とゆっくり会話を楽しみ気持ちの良い入浴が出来るよう支援している。	入浴は週2回とし、その日の気分や習慣に沿って対応している。入浴を拒む人には無理強いせず、タイミングを工夫している。また、介助者との相性にも配慮し、コミュニケーションを図りながら、心地よい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご利用者様の希望や体調に合わせて、休息できるよう環境整備をしている。夜間、寝付けない時には、職員と一緒にお話しをして穏やかな時間を過ごしたり、温かい飲み物を提供したり、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの服薬ファイルを作成し、薬の目的や副作用等把握出来るよう努力している。又、薬の変更や状態変化があるときには、しっかり記録し申し送りを行い連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話より、やりたい事や楽しみな事を聞き取ったり、一人ひとりの生活歴を把握し、楽しみや役割を持って生活が出来るように場面作りを心掛け支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の近くに公園へ散歩に出かけ、ベンチに座り話ができる環境にあり、日常的に外気に触れている。ご本人の希望を聞き取り、出来る限り希望に添えるように外出支援をご家族と共にしている。	花壇の花を眺めながら、広い敷地内を歩いたり、近くのグラウンドや公園のベンチで休憩しながら、ゆっくり散歩を楽しんでいる。希望に応じて、買い物や理美容院、一時帰宅、墓参り等の外出を支援している。年間行事として季節の花見や紅葉狩り、地域のイベントなどへも出かけている。	

岐阜県 グループホームきらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様で財布を持っていないと不安な方には、個人で財布を持っていただいています。外出時には財布を持って出掛け、ご自分で支払いをしていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ってみえる方には、毎日充電や電源の確認をしている。電話をしたいとの希望される方には、事務所に来て頂き自ら電話をかけていただいている。又、希望者には年賀状発送のお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には季節ごとにご利用者様と一緒に作成した作品を飾り、季節を感じられる工夫をしている。外には鳥の餌台があり、大窓からバードウォッチングが楽しめるようにしている。室温・湿度に気を配り、空調管理を行っている。	共用の間には、絵画や壁飾り、雛段や季節感のある手づくり作品を掲示している。窓越しの景観もよく、利用者が野鳥の観察を楽しめるよう、庭にエサ台が置いてある。居間には、畳のコーナーがあり、ソファを複数配置して、利用者が好きな場所で居心地よく寛げるよう環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの行き来が自由にできるように支援している。各所にソファを置き、気の合ったご利用者様同士で座れる場所を作っている。食堂のテーブルも利用者様に合わせ、配置や席の考慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には好みの物を置いて頂き、居心地よい空間を作っていたり、使い慣れた家具を使用することでの利点をご家族様に理解していただき、協力を得て馴染み深い物を家から持って来ていただくようにしている。	家族の協力を得て、使い慣れた物を本人の好みに配置している。趣味の作品や日めくりカレンダー、家族や記念の写真、本人の似顔絵付きの色紙等を飾り、本人が落ち着けるよう、部屋づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせ家具やポータブルの配置を変えたり、何かわかるように貼り紙をしたり環境整備に努めている。手すりが必要な場所があれば設置し安全に生活が送れるように努めている。		